



3年生 探究活動インタビュー

8月に神戸で行われた「令和7年度SSH生徒研究発表会」に本校代表として参加した、3年生の隈元泰輝さん、富田剛大さん。二人に3年間の探究活動を振り返ってもらいました！

ー研究テーマの設定に至るまでー

「元々同じクラスで仲が良く、興味ある分野が似ていました。1年の終わりのテーマ設定では、『ドラえもんってすごいよね!』って話から『四次元ポケットを作ろう!』に決定!」「そしたら松田先生に苦い顔されて・・・」「尾辻先生に呼ばれて『相対性理論』の説明を受けたりしたよね」「『こりゃ無理だ』ってなっていたら、松田先生から『身近な所から素朴な疑問を探してごらん』ってアドバイスを頂いたんです」「それから二人で校内をぐるぐる歩いて・・・」「雨が降ってて・・・」「グラウンドを見て、いつも部活動で困っている水たまりって、よく見ると面白いなって」「『なぜできる?できなくするには?』』って考え始めたことが最終テーマ『水はけの悪いグラウンド』に繋がりました」



ーテーマ設定後の研究についてー



▲実験の様子①

「とりあえず、水たまりのある所とない所の土を取りに行きました!布団乾燥機に入れて乾燥させて」「先行研究を調べた後、とりあえず何かやってみよう!実験、実験!って感じ」「2年の夏から冬までの約3か月が今思うと一番大変だった・・・」「水はけと土の粒の大きさの関係を調べるため、探究の時間は毎回2時間土をふるいにかけて粒を分けてました・・・」「とにかくすぐ目詰まりするんです。1時間で1杯分しか進まないことも。試行錯誤しつつ、通りかかった先生方に意見を聞いたり・・・」「あの時期は本当に辛かったよね・・・」



▲水と混ぜて沈殿させた砂

ー二人の転機は?外部発表会への参加のすまー

「2年の後半かな?SSHの先生から外部の発表会へって声をかけられて、自分たちのまとめにもなるし、助言ももらえるかもって」「実験も失敗かなって思うこともあって」「正直県外の旅行にも行きたかった」「でも県内での発表の時に、県立博物館の先生から自分たちのやっていることの意義と実験のアドバイスを聞いたのは大きかった!」「帰ったらすぐにペットボトルを使って、土の沈殿の様子を見る実験を始めた」「一つの実験を続けていると主観的になったり、視野が狭くなったりする。初見の人からの率直な意見や質問は、本当に新しい発見に繋がる」「質問が出なかった時にも、自分たちであえて聞きに行った」「質問されて答えることで、自分たちがやっている実験への理解も深まるのがよく分かりました」

ー宝山ホールでの最終報告会後について・科学部の協力ー

「神戸に向けて更に実験を追加しました。レンガを300回とか地面に叩きつけて、上や斜めからの圧力を加える。研究を引き継いでくれる科学部の1・2年生が実験に協力してくれた」「時間は限られていたけれど、あのサポートがあったから、より内容の濃い発表になったと思う。本当に感謝です!」



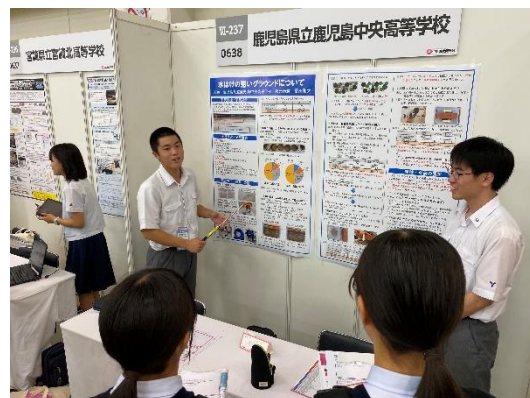
▲実験の様子②

—神戸での発表はどうでしたか？—



▲神戸で行われた研究発表会
(全国から 238 校が参加)

「ポスター発表については、事前にたくさんの先生方に見ていただいた」「頭で分かっていることを、どう自分の言葉に落とし込むか。後半は相手の反応を見ながら発表できるくらいになった。練習あるのみ」「発表ブースに来てくれる方が途切れなかったのは、テーマが分かりやすく、研究の動機が共感を得やすかったからだと思う」
「全国の SSH 校の発表は本当にレベルが高かった。入賞できなくて悔しかったけれど、テーマ設定、実験の規模、回数、時間、アイデア……。同じ高校生で、探究活動に真剣に打ち込んでいる人が全国にたくさんいる、ということを知ることができて、大きな刺激になりました」



▲ポスター発表の様子
(二日間で 20 回以上発表しました)

—後輩へのアドバイス—

「調べて終わり、アンケートを取って終わり、はもったいない。仮説と検証を繰り返すと本当に夢中になれる」「行き詰まったらとにかく誰かに話す。質問する」「外部に出るチャンスがあるなら是非挑戦してほしい。準備も含めて、必ず成長できる」「素朴な疑問を楽しみながら解決しよう」「途中で面白くないな、と思ってもやり続けること。メンバーと真剣に話し合って、テーマに向き合い続けること」「とにかく動いてから考える。考えて、また動く!」「SSH 校だからこそできる経験がたくさんある。ぜひ探究を積極的に楽しんでほしい」

まだまだ話は尽きない二人。活動が本格化する後輩に向けて、貴重なアドバイスとエールを送ってくれました。
1・2 年生もそれぞれのテーマに「真剣に」向き合い、探究活動に「楽しんで」取り組みましょう！

International Collaborative Research Project (国際共同研究プロジェクト) への挑戦

今年度、立命館高校が主催する8か月間の国際共同研究プロジェクトに、2年生4名(62D63 班)が挑戦しています。

〈 活動内容は? 〉

タイのチュラロンコン大学附属高校の生徒と研究を進めています。テーマは「薬草の効果の違いから、より効果の高い消毒液を作る」です。きっかけは、コロナ感染症対策としてアルコール消毒が広まる中、化学物質過敏症により市販の消毒液が使えない人がいることを知ったことです。どんな方でも安心して使える自然由来の薬草を使った消毒液の開発を目指しています。研究だけでなく国際交流の楽しさや難しさについても学んでいます。(宮原 杏蜜)

〈 どのようなスキルを伸ばしていきたい? 〉

交流を深めたいと思っても英語力の差によってうまく伝わらなかったり、表現の違いから誤解が生まれてしまったりする場面がありました。今後は「情報を整理する力」や「意見を的確に伝える英語力」を身につけていきたいと考えています。(和田 凜)

▼オンラインミーティングの様子



〈 参加した感想は? 〉

自分の英語が相手に通じたと分かった瞬間は達成感を強く感じます。言葉の壁を少しずつ越えていく感覚がとても楽しいです。また、タイの高校生と話す中で、異なる考え方や文化の違いに触れ、新しい視点を得ることがができます。こうした経験は、自分の視野を広げるきっかけになっています。難しさや戸惑いもありますが、それを乗り越えることで多くの発見があり、挑戦しがいのある探究活動だと感じています。(牧枝 優奈)

〈 課題に感じている点は? 〉

言葉や考え方の違いから、意見をまとめる難しさを感じます。英語で専門用語を理解したり、自分の考えを正確に伝えたりするのに苦勞し、もどかしさを感じる場面もあります。それでも、相手の意見を尊重して聞く姿勢や、自分の考えを工夫して伝える力が少しずつ身についていると感じています。今後は、多様な価値観の中でも円滑に対話できる力を伸ばしていきたいです。違いを乗り越えることが、新たな学びに繋がると実感しています。(岩元 詩栞)

発行：SSH推進部広報(2025 年 9 月発行)